

平成23年度国際水産資源関係研究開発推進会議 報告書

| | |
|-------|------------|
| 会議責任者 | 国際水産資源研究所長 |
|-------|------------|

1 開催日時及び場所

- 1) 日時 平成23年11月24日13:30～17:00 (外洋資源関係)
平成23年11月25日13:30～17:00 (まぐろ類資源関係)
- 2) 場所 南青山会館 (東京都港区) 3・4号会議室

2 出席者所属機関及び人数

- 1) 外洋資源関係 14機関 30名
- 2) まぐろ類資源関係 23機関 41名

3 結果の概要

1) 外洋資源関係

| 議 題 | 結 果 の 概 要 |
|-----------------|--|
| 主催者挨拶 | <p>国際水研所長より、3月の東日本大震災で被害を受けた水産業界・関係機関に対してお見舞い申し上げるとともに、9月に行った研究所の名称変更並びにこれに合わせた本会議の名称変更と位置づけについて報告が行われるとともに、同所における国際水産資源関係の対応状況について説明がなされた。</p> <p>水研センター理事より、震災へのお見舞いと水研センターによる復興への取り組みについて説明が行われるとともに、水研センターの第3期中期計画における研究開発の5つの柱に関する説明並びに国際水産資源及び水研センターを巡る最近の動きについて情勢報告がなされ、関係機関の一層のご協力とご支援をお願いする旨の挨拶がなされた。</p> |
| 来賓挨拶 | <p>水産庁研究指導課研究管理官より、震災へのお見舞いと水産庁による復興への取り組みについて説明が行われるとともに、諸情勢を背景とした水研センターの研究開発に対する要望と国民から一層信頼される組織になるようにとの期待が表明された。</p> |
| 第三期中期計画の概要と重点事項 | <p>国際水研業務推進部長より、水研センターの第3期中期計画における同所の中長期的研究開発の位置づけと考え方について資料に基づいて説明が行われた。</p> |
| 外洋資源に関する | <p>国際水研外洋資源部長より、同部が担当する漁業・国際対応の現状、</p> |

| | |
|------------------------------|--|
| <p>る研究開発の総括、連携・協力の現況</p> | <p>研究課題及び担当事業の実施状況、成果について説明が行われた。</p> <p>中央水研海洋・生態系研究センター、水工研漁業生産工学部、水産大学校より、各組織における外洋資源関係の研究開発への取り組み状況について報告が行われ、報告内容に関する質疑応答があった。</p> |
| <p>総合討論「外洋資源を巡る情勢と研究ニーズ」</p> | <p>日本鯨類研究所より、鯨類資源に関わる調査・研究について、同研究所と国際水研が今後も連携・協力して推進することが必要であるとの意見が表明され、重要課題として、北太平洋のミンククジラの系群解析のための遺伝及び分布・移動生態に関する研究、資源量が少ない鯨種の保全・管理のための科学的アプローチ、一般向け広報活動の充実が要望された。</p> <p>全国いか加工業協同組合及び全国遠洋沖合いかつり漁業協会より、世界的なイカ類の不漁と加工原料不足について情報紹介があるとともに、海外のイカ類資源への対応及びアカイカ漁場探索のための分布生態の把握などの研究推進について要望があった。</p> <p>日本トロール底魚協会より、天皇海山海域における漁業に関連して、漁業者の意識高揚につながる研究開発、例えばクサカリツボダイの加入機構解明などに対して、研究継続の要望があった。</p> <p>開発調査センターより、イカ類資源対策としてニュージーランド沖漁場など既存の資源の有効活用が重要であること、インド洋の全層トロール調査のフォローアップとしてキンメダイ資源管理に関する国際会議対応へ貢献していくことが説明された。</p> <p>国際水研より、外洋資源関係の研究開発に関わる要望については今後も関係機関と連携・協力しつつ対応していく旨が説明された。</p> |
| <p>研究成果情報</p> | <p>国際水研より、今年度外洋資源関係でアカイカ1件、ミンククジラ2件の研究成果情報が提案・説明された。アカイカについては、公海漁場での操業に利用可能なデータの取り扱いを関係業界と水産庁で協議し、その結果を水研側に連絡して公表するかどうか決定することとなった。ミンククジラについては、今回のデータが将来の調査の足がかりになることから公表可能との意見が出され、反対意見はなく、承認された。</p> |
| <p>総括</p> | <p>国際水研所長より、外洋資源に関する今回の会議の中で出された意見、要望等を踏まえ、関係機関との一層の連携・協力と相互理解を深めつつ、各課題の重要性を踏まえて、今後も適切に研究開発、国際対応等にあたりたいとの総括が行われ、個別の要望について次の通り対応する考えである旨が説明された。1) 広報のあり方に関する意見については、水研センター全体に関わる問題であり、外部への影響を考慮しつつ効果的な広報となるよう努めたい。2) アカイカやクサカリツボダイなど、加入変動が漁獲に直接影響する資源の持続的利用については、変動予測</p> |

| | |
|--|---|
| | <p>や加入機構の把握などの長期的課題を踏まえつつ、短期的方策を考えていく。3) 北太平洋公海における新たな漁業条約については、条約締結に向けた動きを注視しつつ、関係機関と連携・協力して齟齬のないよう対応していく。</p> |
|--|---|

2) まぐろ類資源関係

| 議 題 | 結 果 の 概 要 |
|----------------------------|--|
| 開会の挨拶 | <p>国際水研所長より、3月の東日本大震災で被害を受けた水産業界・関係機関に対してお見舞い申し上げるとともに、9月に行った研究所の名称変更並びにこれに合わせた本会議の名称変更と位置づけについて報告が行われるとともに、同所における国際水産資源関係の対応状況について説明がなされた。</p> <p>水研センター研究開発コーディネーターより、震災へのお見舞いと水研センターによる復興への取り組みについて説明が行われるとともに、水研センター第3期中期計画の概要並びに国際水産資源及び水研センターを巡る最近の動きについて情勢報告がなされた。</p> |
| 来賓挨拶 | <p>水産庁研究指導課研究管理官より、震災へのお見舞いと水産庁による復興への取り組みについて説明が行われるとともに、諸情勢を踏まえた水研センターの研究開発に対する要望と水研センターが国民にとって意味のある組織として活動していくようにとの期待が表明された。</p> |
| 第三期中期計画の概要と重点事項 | <p>国際水研業務推進部長より、水研センターの第3期中期計画における同所の中長期的研究開発の位置づけと考え方について資料に基づいて説明があった。</p> |
| まぐろ類資源に関する研究開発の総括、連携・協力の現況 | <p>国際水研かつお・まぐろ資源部長より、同部及びくろまぐろ資源部が担当する漁業及びそれを巡る国際情勢、研究課題及び担当事業の実施体制と連携、今年度の研究成果、今年度以降の調査研究方針について説明があった。</p> <p>中央水研海洋・生態系研究センター、水工研漁業生産工学部、開発調査センターより、各組織におけるまぐろ類資源関係の研究開発への取り組み状況が報告された。</p> |
| 総合討論「まぐろ類資源を巡る情勢と研究ニーズ」 | <p>宮城県水産技術総合センター、千葉県水産総合研究センター、静岡県水産技術研究所、三重県水産研究所、和歌山県農林水産総合技術センター水産試験場、高知県水産試験場、宮崎県水産試験場、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、鳥取県水産試験場、長崎県総合水産試験場より、まぐろ類資源関係の調査研究の実施状況について資料等に基づき報告がなされるとともに、各県の状況を踏まえて水研センターの研究開発に対する以下の要望が提示された。</p> <p>1) カツオ資源研究（資源状況把握、移動回遊生態把握、来遊予測）への対応（宮城県、千葉県、三重県、和歌山県、高知県、宮崎県）</p> |

、2) 遠洋竿釣り漁業の現状を踏まえた諸課題（漁業情報、餌イワシ確保、品質向上・鮮度保持、トロビンナガ原料魚確保）への対応（静岡県）、3) 太平洋クロマグロ資源研究（資源生態及び資源状態の把握、持続的管理方策、稚魚の回遊経路の予測、調査結果の漁業者向け説明）への対応（和歌山県、宮崎県、石川県、鳥取県、長崎県）、4) ビンナガ来遊資源量把握（宮崎県）。

水産大学校より、水研センターとの連携により実施した今年度調査研究の結果概要と次年度以降の計画について報告が行われた。

日本かつお・まぐろ漁業協同組合より、国際会議の動向や結果などの最新情報を漁業者にわかりやすい形で積極的に公表・説明してほしい旨の意見が出された。漁業者の負担軽減を考慮したサメ類・海鳥の混獲回避のための技術開発及びカツオ資源解析についても一層の進展を期待するとの意見が示された。

全国水産高等学校実習船運営協会より、混獲問題への対応について引き続き情報提供を求める意見が示された。

日本定置漁業協会より、クロマグロの資源解析、特に漁業種類別の漁獲強度が資源に及ぼす影響評価に関する研究への取り組みについて要望が出された。

国際水研かつお・まぐろ資源部長より、太平洋沿岸域でのカツオ漁業への対応として、該当県の漁業データの共同解析、国際会議への報告を行い、カツオ資源の分布縁辺域への注意喚起したこと、ビンナガの漁場形成に関する研究開発については、はえ縄漁業データを利用した情報提供を継続して行うことが説明された。

日本かつお・まぐろ漁業協同組合より、現場では過去と現在のカツオ漁況が異なるとの見方があるとの意見が紹介された。これに対しては、国際水研かつお・まぐろ資源部長より、資源評価結果と漁業現場における認識との差異が存在することを認識しており、そのギャップを埋めるため一層努力することが説明された。

くろまぐろ資源部長より、クロマグロに関する最近の情勢として、平成24年5月の資源評価に向けて準備を進めていること、稚魚分布調査、0歳魚の加入モニタリング調査等への取り組み状況、成果の啓蒙活動として水研センター叢書の出版やまぐろ研究会の開催を行っていることが報告されるとともに、情報開示については内容や対象ごとに適切な方法で対応していく必要がある旨が説明された。

水産庁漁場資源課課長補佐より、水研センターによる調査結果の資源管理への活用を促進していること、広報活動としてパンフレットを作成して事業紹介を行っていること、調査活動の強化を図るため関係県とともに予算確保に取り組んでいることが説明された。

水産庁国際課課長補佐より、まぐろ類資源を巡る今後の国際的な動向の見通しについて説明が行われるとともに、かつお・まぐろ漁業管

| | |
|---------------|---|
| <p>研究成果情報</p> | <p>理における我が国の主導的立場等を考慮しつつ引き続き適切に対応してほしい旨の意見が示された。</p> <p>メカジキとヨシキリザメを対象としたはえ縄漁場環境調査に関する成果情報については、後日水産庁と国際水研による意見交換を行った上で公表の可否を決定することとなった。</p> <p>クロマグロ稚魚の回遊経路推定に関する成果情報については、特段の指摘がなく承認された。</p> |
| <p>総括</p> | <p>国際水研所長より、以下の点を含めて総括がなされた。1) まぐろ類資源の研究開発に関する情報提供や広報のあり方については、外洋資源関係と共通する課題であり、情報の内容や漁業現場や一般等の対象に合わせて工夫するよう関係者と連携・協力・相談して適切に対応することが求められるが、技術的な課題もあることに留意する必要がある。2) 加入群を漁獲するという我が国の水産資源利用における問題の解決には、資源評価と同時に加入量予測という大きな課題への挑戦が求められることから、国の行政機関をはじめ、地方、水研センターが連携・協力してこうした課題に取り組んでいく必要がある。</p> |

別添 1

平成 23 年度水産総合研究センター水産業関係研究開発推進会議
国際水産資源関係研究開発推進会議
「外洋資源」関係会議 議事次第

- ・開催日時：平成 23 年 11 月 24 日（木） 13：30～17：00
- ・開催場所：南青山会館（〒107-0062 東京都港区南青山 5-7-10 電話 03-3406-1365）

◎「外洋資源」関係会議 13:30～17:00

テーマ・内容：外洋資源（鯨類資源、外洋性イカ類・底魚類資源、外洋生態系等）及び関連分野の研究開発の現状、問題点、重要課題、実施状況と成果、ニーズと具体的な取り組み等

- | | | |
|-------------------------------------|------------------|--------|
| 1. 開会 | 国際水産資源研究所 業務推進部長 | 13:30～ |
| 2. 主催者挨拶 | 国際水産資源研究所長 所長 | 13:30～ |
| | 水産総合研究センター 理事 | 13:35～ |
| 3. 来賓挨拶 | 水産庁（増殖推進部） | 13:40～ |
| 4. 出席者紹介 | 国際水産資源研究所 業務推進部長 | 13:45～ |
| 5. 資料確認 | 国際水産資源研究所 業務推進部長 | 13:50～ |
| 6. 第三期中期計画の概要と重点事項（業務推進部長） | | 13:55～ |
| 7. 外洋資源に関する研究開発の総括、連携・協力の現況（外洋資源部長） | | 14:05～ |
| 休憩 | | 15:05～ |
| 8. 総合討論 「外洋資源を巡る情勢と研究ニーズ」（業務推進部長） | | 15:20～ |
| 9. 研究成果情報（業務推進部長・外洋資源部長） | | 16:30～ |
| 10. 総括（国際水産資源研究所長） | | 16:50～ |

平成23年度水産総合研究センター水産業関係研究開発推進会議
国際水産資源関係研究開発推進会議
「まぐろ類資源」関係会議 議事次第

・開催日時：平成23年11月25日（金）13：30～17：00

・開催場所：南青山会館（〒107-0062 東京都港区南青山 5-7-10 電話 03-3406-1365）

◎「まぐろ類資源」関係会議 13:30～17:00

テーマ・内容：かつお・まぐろ類資源及び関連分野の研究開発の現状、問題点、重要課題、実施状況と成果、ニーズと具体的な取り組み等

- | | | |
|--|-------------------------------|------------------|
| 1. 開会 | 国際水産資源研究所 業務推進部長 | 13:30～ |
| 2. 主催者挨拶 | 国際水産資源研究所 所長 水産総合研究センター 理事 | 13:30～ 13:35～ |
| 3. 来賓挨拶 | 水産庁（増殖推進部） | 13:40～ |
| 4. 出席者紹介 | 国際水産資源研究所 業務推進部長 | 13:45～ |
| 5. 資料確認 | 国際水産資源研究所 業務推進部長 | 13:50～ |
| 6. 第三期中期計画の概要と重点事項（業務推進部長） | | 13:55～ |
| 7. まぐろ類資源に関する研究開発の総括、連携・協力の現況 （くろまぐろ資源部長、かつお・まぐろ資源部長） | | 14:05～ |
| 休憩 | | 15:05～ |
| 8. 総合討論 「まぐろ類資源を巡る情勢と研究ニーズ」（業務推進部長） | | 15:20～ |
| 9. 研究成果情報（業務推進部長・まぐろ資源二部長） | | 16:30～ |
| 10. 総括（国際水産資源研究所長） | | 16:50～ |

別添 2

| 国際水産資源関係研究開発推進会議－外洋資源関係－出席者名簿 | | | |
|-------------------------------|----------------------|------------------------|-----------|
| | 機 関 名 | 役 職 | 氏 名 |
| 1 | 日本鯨類研究所 | 研究部長 | ルイスA・ハステネ |
| 2 | 海外まき網漁業協会 | 参事 | 福山 哲人 |
| 3 | 全国遠洋沖合いかつり漁業協会 | 主査 | 武下 太郎 |
| 4 | 全国いか加工業協同組合 | 専務理事 | 野々山 浩 |
| 5 | 日本トロール底魚協会 | 理事・事務局長 | 高木 則明 |
| | | 業務課長 | 秋本 真彦 |
| 6 | 独立行政法人 水産大学校 | 学科長・教授 | 濱野 明 |
| 7 | 水産庁資源管理部 国際課 | 首席漁業調整官 | 太田 慎吾 |
| | | 課長補佐 | 川島 哲哉 |
| | | 係長 | 生駒 潔 |
| | | 係員 | 藤原 孝浩 |
| | | 捕鯨情報企画官 | 竹越 攻征 |
| 8 | 水産庁増殖推進部 研究指導課 | 研究管理官 | 一井 太郎 |
| 9 | 水産庁増殖推進部 漁場資源課 | 混獲生物資源係長 | 高橋 智行 |
| 10 | 水産総合研究センター 本部 | 理事 | 石塚 吉生 |
| | | 研究開発コーディネーター | 島田 裕之 |
| 11 | 水産総合研究センター 開発調査センター | 底魚・頭足類開発調査 グループリーダー | 越智 洋介 |
| 12 | 水産総合研究センター 中央水産研究所 | 海洋・生態系研究センター 主幹研究員 | 稲掛 伝三 |
| 13 | 水産総合研究センター 水産工学研究所 | 漁業生産工学部長 | 宮野鼻 洋一 |
| 14 | 水産総合研究センター 国際水産資源研究所 | 所長 | 魚住 雄二 |
| | | 業務推進部長 | 本多 仁 |
| | | 業務推進課長 | 田邊 智唯 |
| | | 情報係長 | 小田 利枝 |
| | | 国際海洋資源研究員 | 西田 勤 |
| | | かつお・まぐろ資源部長 | 小倉 未基 |
| | | 外洋資源部長 | 宮下 富夫 |
| | | 鯨類資源グループ長 | 岩崎 俊秀 |
| | | 鯨類資源グループ 主幹研究員 | 木白 俊哉 |
| | | 外洋生態系グループ長 | 清田 雅史 |
| | | 外洋生態系グループ 主任研究員 | 林原 毅 |

国際水産資源関係研究開発推進会議—まぐろ類資源関係—出席者名簿

| | 機 関 名 | 役 職 | 氏 名 |
|----|---------------------------|-----------------------|--------|
| 1 | 宮城県水産技術総合センター | 技術主幹 | 佐伯 光広 |
| 2 | 千葉県水産総合研究センター | 資源研究室 上席研究員 | 石井 光廣 |
| 3 | 静岡県水産技術研究所 | 研究総括監 | 津久井 文夫 |
| 4 | 三重県水産研究所 | 資源開発管理研究課 総括研究員兼課長 | 津本 欣吾 |
| 5 | 和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場 | 資源海洋部長 | 武田 保幸 |
| 6 | 高知県水産試験場 | 漁業資源課長 | 田ノ本 明彦 |
| 7 | 宮崎県水産試験場 | 資源部 副部長 | 東 明浩 |
| 8 | 富山県農林水産総合技術センター 水産研究所 | 海洋資源課長 | 野沢 理哉 |
| 9 | 石川県水産総合センター | 研究主幹 | 木本 昭紀 |
| 10 | 鳥取県水産試験場 | 漁場開発室長 | 石原 幸雄 |
| 11 | 長崎県総合水産試験場 | 漁業資源部 海洋資源課 主任研究員 | 高木 信夫 |
| 12 | 全国水産高等学校実習船運営協会 | 事務局長(八戸水産高校 教諭) | 島守 正寿 |
| 13 | 日本かつお・まぐろ漁業協同組合 | 国際部 課長 | 千代 喜久男 |
| 14 | 日本定置漁業協会 | 専務理事 | 森 義信 |
| 15 | 独立行政法人 水産大学校 | 准教授 | 毛利 雅彦 |
| 16 | 水産庁資源管理部 国際課 | 首席漁業調整官 | 太田 慎吾 |
| | | 課長補佐 | 川島 哲哉 |
| | | 課長補佐 | 中塚 周哉 |
| | | 係長 | 田上 航 |
| | | 係員 | 藤原 孝浩 |
| 17 | 水産庁増殖推進部 研究指導課 | 研究管理官 | 一井 太郎 |
| 18 | 水産庁増殖推進部 漁場資源課 | 課長補佐 | 田原 康一 |
| 19 | 水産総合研究センター 本部 | 研究開発コーディネーター | 島田 裕之 |
| 20 | 水産総合研究センター 開発調査センター | 浮魚グループリーダー | 伏島 一平 |
| 21 | 水産総合研究センター 中央水産研究所 | 海洋・生態系研究センター 主幹研究員 | 稲掛 伝三 |
| 22 | 水産総合研究センター 水産工学研究所 | 漁業生産工学部長 | 宮野鼻 洋一 |
| 23 | 水産総合研究センター 国際水産資源研究所 | 所長 | 魚住 雄二 |
| | | 業務推進部長 | 本多 仁 |
| | | 業務推進課長 | 田邊 智唯 |
| | | 情報係長 | 小田 利枝 |
| | | 国際海洋資源研究員 | 宮部 尚純 |
| | | 国際海洋資源研究員 | 西田 勤 |
| | | くろまぐろ資源部長 | 中野 秀樹 |
| | | かつお・まぐろ資源部長 | 小倉 未基 |
| | | くろまぐろ資源グループ長 | 竹内 幸夫 |
| | | くろまぐろ生物グループ長 | 阿部 寧 |
| | | 温帯性まぐろグループ長 | 伊藤 智幸 |
| | | かつおグループ長 | 岡本 浩明 |
| | | まぐろ漁業資源グループ 主任研究員 | 佐藤 圭介 |
| | | 混獲生物グループ長 | 南 浩史 |
| | | かつお・まぐろ資源部 主幹研究員 | 魚崎 浩司 |